

# 事務職員会ニュース

Vol 2.3



## 特集「関東大会・全国大会」

### 関東大会の注目ポイント

- 千葉県発表  
研究大会のあり方を提案
- グループ討議で見えた、  
事務職員のやりがい
- AI・IT活用や他県事例に  
学ぶ業務改善

### 全国大会の注目ポイント

- 全国の仲間と語り合う、  
学校事務の未来
- 基調講演、働きやすさと  
働きがいのヒント
- QRコード活用で効率UP！  
実務アイデア満載



# 第77回関東公立高等学校事務職員研究大会群馬大会

令和7年5月30日、群馬県高崎にて「第77回関東公立高等学校事務職員研究大会並びに総会」が開催されました。研究大会全体の参加者は167名、千葉県からは25名が参加しました。大会は、学校事務の諸問題と研究統一テーマ「教育の発展と学校事務の充実をめざして」を主題に、研究発表とグループ討議が行われました。

## 研究発表

第1分科会では、群馬県「情報セキュリティの提言～学校現場に特化した情報セキュリティの基礎～」と茨城県「はじめての公有財産事務」が、第2分科会では、埼玉県「学校事務職員として抱えているストレスとどう向き合うか」と千葉県の4つの研究が発表されました。

今年度の定期総会で発表した「研究大会のあり方について～これからどうする？今何が必要か～」を研究企画特別委員会より発表しました。

『今求められている、新しい研究』について、令和5年度をもって一区切りとした千葉県での研究大会とその経緯に現状の考察と問題点を加え提案する内容でした。また、発表の最後には『関東大会を隔年開催とし、合間の年に研修会や意見交換会等の都県を超えて「横の繋がり」を構築する機会を設けてはどうか』という、千葉県内にとどまらない切り込んだ提案を行いました。

他県が実務に直結するマニュアルや対処法等の研究発表をする中、『研究大会のあり方』という付帯業務にフォーカスした異色の発表となりましたが、革新的かつ挑戦的な一歩を踏み出した、大きな意味のある発表となりました。

## 千葉県発表



～千葉県発表者の皆さん～

伊藤さん(我孫子特支)  
高濱さん(木更津高) 川島さん(佐原高)

「学校事務職員だからできること～事務職員の楽しさについて語ろう～」では、各県の参加者が、22のグループに分かれ、表題について討議を行いました。仕事に対する思いや、他県の状況を知ることができ、たいへん有意義な交流となりました。以下にそこで出た意見等をいくつか紹介します。仕事に対するマインドの持ち方や業務改善のきっかけになれば幸いです。

### ◆共通議題1◆

#### 「事務職員になってよかったこと」

##### 1 生徒に関わる喜び

- ・生徒の笑顔が見られる、成長が見守れる
- ・生徒のためになる仕事ができる

##### 2 感謝されるやりがい

- ・ありがたい言葉をもらえる
- ・自分が学生の頃にお世話になっていた人への恩返しのような気持ちで仕事ができる

##### 3 学校運営に貢献できる満足感

- ・学校のために内側から活動ができる
- ・自分の仕事の成果や結果が目に見える

##### 4 人とのつながり

- ・つながりができる、多くの人と接することができる
- ・学生や先生など多くの価値観を学べる

##### 5 生活の充実

- ・ワークライフバランスが充実している（休みがとりやすい）

## グループ討議

### ◆共通議題2◆

#### 「事務職員だからできる（できた）こと」

##### 1 学校運営に関わる役割

- ・学校運営のキーになることができる
- ・エアコン導入等の学校環境改善ができる
- ・外壁工事やトイレ改修工事等を担当できた

##### 2 生徒を支える仕事

- ・就職面接や生徒の公務員になる目標を助けられる

##### 3 専門的なスキルの習得

- ・PCスキルの習得
- ・規則や法律等社会の仕組みに詳しくなる

##### 4 学校ならではの体験

- ・屋上や体育館天井裏など、普段いけない場所に行ける

##### 5 自己成長と生活への影響

- ・簡単な修理が出来るようになった
- ・文書をよく読むようになり、自分の成長を感じられた



# 参加者レポート ～私はこう感じました～

令和七年五月三十日、群馬県高崎市のエテルナ高崎で開催された第七十七回関東公立高等学校事務職員研究大会に参加しました。午前中は第二分科会に参加し、埼玉県と千葉県の研究発表を拝聴しました。埼玉県のチームは「学校事務職員として抱えているストレスとどう向き合うか」でした。学校事務職員は、多様な立場の人と関わる機会が多く、人間関係に起因するストレスを抱えやすい職種です。発表では、そうしたストレスに向き合うための具体的な対処法が紹介されました。なかでも印象に残ったのは「コーピングマントラ」と呼ばれる手法です。これは、困難な状況に直面したときに、自分を落ち着かせるための言葉をあらかじめ決めておくき、それを心の中で唱えるという方法です。たとえば、誰かにきつい言葉をかけられたときに「なんとかなる」「まあいいか」といったフレーズを思い出すことで、気持ちを整えることができます。日常の業務の中でもすぐに実践できる手軽さが魅力で、私自身も取り入れてみたいと感じました。

続いて千葉県の発表では、柏特別支援学校の伊藤さん、佐原高校の川島さん、木更津高校の高濱さんが登壇し、「研究大会の在り方について」これからどうする？今何が必要か？というテーマで発表を行いました。令和五年度の千葉県研究大会をもって従来の形式は一区切りを

## 「形式から実践へ 研究大会の新たな一歩」

迎えました。これまでの大会は、多忙な業務と並行して準備・運営を進める必要があり、研究担当者だけでなく送り出す学校にも大きな負担がかかっていました。その結果、「事務職員の資質向上」や「学校事務の充実」といった本来の目的が薄れ、「研究大会のための作業」となってしまうという現状が浮き彫りになりました。こうした課題を踏まえ、今後は希望者が自主的に研究を進め、その成果を県全体で発表する新たなスタイルが提案されました。これにより、勤務校の負担が軽減されるだけでなく、実務に直結する研究の推進や職員間の交流促進も期待されています。形式にとらわれず、柔軟で実効的な研究を進めていく姿勢は、学校事務の未来に大きな可能性を感じさせるものでした。

午後は五人程度のグループに分かれ、「事務職員になってよかったこと」「事務職員だからできた（できる）こと」の二つのテーマで討議を行いました。「事務職員になってよかったこと」として多く挙げたのは、勤務時間が比較的安定しており、ワークライフバランスを取りやすい点です。定時退勤の日が多く、仕事終わりにゆとりを持って、休日をしつかり休めるという声がありました。一方で、繁忙期には会計や書類業務が重なり残業も発生しますが、休暇を取りやすい点は大きな利点といえます。

## 松戸六実高等学校 主事 森島 滉介

また、学校という環境で四季の移ろいを行事や風景を通じて感じられるという意見も印象的でした。「事務職員だからできたこと」では、校内に自由に出入りできる立場を活かし、生徒の知らない学校の裏側を知ることができると、書類や書類業務を通じて進路実現に間接的に関われる点が挙げられました。一枚一枚の書類が生徒の未来につながることで責任とやりがいを感じ、強く実感しているという意見もありました。

私のグループは討議の時間に余裕があったため、追加で「職場の人間関係」についても意見交換を行いました。業務は教職員や他の職員との連携が多く、日々のコミュニケーションが欠かせません。



グループ討議の様子

ちょっとした声かけや気遣いが職場の雰囲気や和らげ協力しやすい環境づくりにつながるという意見が印象的でした。人間関係は業務の効率だけでなく、働く人の心にも大きな影響を与えます。にぎやかでなくても、自然と会話が生まれ、笑顔でいられる職場はストレスの軽減にもつながります。

今回の大会を通じて、事務職員としてのやりがいや職場環境の大切さを改めて実感しました。日々の業務に丁寧に向き合い、初心を忘れず、謙虚な姿勢で成長を重ねていきたいと感じています。



# 第77回全国公立高等学校 事務職員研究大会 香川大会

## 記念講演 「チームマネジメント～リーダーシップの挑戦」 講師 岡田 武史 様

全体会・文部科学省講話の後、「チームマネジメント～エラー＆ランでの挑戦」と題して岡田武史氏による記念講演が行われました。

岡田武史元監督は、現代社会を「何が正解か誰にもわからない、正解のない時代」と捉え、このような時代を生き抜き、人が成長するためには、失敗を恐れずに挑戦する「エラー＆ラン」の精神と、主体性を持つことが不可欠であると話されました。

岡田氏が学園長を務めるFC今治高校では、コーチ（教師）が自らの考えを一方向的に伝えるのではなく、「どうしたの？」「どうしたいの？」「手伝える」とは？という3つの問いかけを通じて、生徒の主体的な思考を促していると紹介しました。また、理想や理念を現実にするためには、100%の実行が必要であり、どれほど素晴らしい計画や目標があっても、それを徹底的にやり抜く覚悟がなければ達成できないと語られました。



事務職員研究大会 開会式の様子・記念講演 演説中の岡田武史 様



岡田 武史 様  
元サッカー日本代表監督  
現在は  
株式会社今治・夢スポーツ  
代表取締役会長

FC今治の経営に携わるようになった当初、経営の経験がなかった岡田氏が大切にしたのは、「モノの豊かさより心の豊かさ」を大切にする社会づくりに貢献する」という企業理念だったと述べています。この理念経営が、コロナ禍という厳しい状況の中でFC今治が黒字を達成する一因となったと振り返りました。

さらに、チームや組織の成長に向けた哲学として、岡田氏は長年の指導経験から導き出した6つのキーワードを紹介しました。

それは「Enjoy（楽しむ）」「Our Team（自分たちのチーム）」「Do Your Best（ベストを尽くす）」「Concentration（集中）」「Improve（成長）」「Communication（対話）」であり、いずれも個人と組織の成長に欠かせない要素であると語られました。

今後のFC今治の取り組みとしては、単なるスタジアム建設にとどまらず、人々が交流し、互いに助け合う「共助のコミュニティ」を地域に根づかせることを目指していると述べています。講演の締めくくりには、「地球は子孫から借りたもの」というネイティブアメリカンの言葉を引用し、未来の世代に希望を残すことこそが、今を生きる私たちの大切な使命であると語られました。





# 研究大会日程表

8/26	8/27 第1分科会	8/27 第2分科会	8/27 第3分科会
開会式・記念講演・総会	★学校組織マネジメント	★業務の改善と効率化	★今日的課題への提言
<p>9.00 研究発表者 助言者打合せ ▽第1分科会司会 十河千夏・助言者 埼玉県立学校2校 伊藤裕昭 川田恵・茨城県立学校 渡信尚▽第2分科会司会 香川県立学校 松本瑞紀・助言者 茨城県立学校2校 関俊信 丸岡良平・群馬県立学校 橋本剛</p> <p>11.30 受付</p>	<p>9.30 <b>Web</b>第1研究発表 「県立学校における電子供給契約の状況と今後の展望」～沖縄県も始めました電子入札～ ▽沖縄県立開邦高 野原隆司・那覇国際高 楚南竜磨・那覇商業高 古堅朋美</p> <p><b>Web</b>第2研究発表 「今後の事務職員協会」 ▽奈良県立畝傍高 田中健一・高円芸術高 兵頭洋子・高取国際高 葛本要</p> <p><b>Web</b>第3研究発表 「事務職員のキャリアデザイン」 ▽宮城県立聴覚支援学校 成田流音・工業高 高橋智佳・仙台南高 鈴木さくら</p>	<p>9.30 <b>Web</b>第1研究発表 「年度末年度初めの担当別業務一覧」～明るく前向きな新年度をスタートするため～ ▽愛知県立津島高 大塚周子・一宮南高 山田祐輝・岩津高 蒲野浩己</p> <p><b>Web</b>第2研究発表 「文書の整理と保管」～情報を整えてスムーズに働こう！～ ▽茨城県立水戸南高 石崎妙子・水戸工業高 大島悠加</p> <p><b>Web</b>第3研究発表 「生成AIを活用した業務の進め方」 ▽広島県立尾道北高 田代隆之・福山明王台高 右下湧太・可部高 中野美登里・芦品まなび学園高 横平昌浩</p>	<p>9.30 グループワーク 「今、仕事は順調ですか？」 ▽講師 神奈川県横浜市日枝小学校事務職員・上部充敬▽総合司会 香川県立香川中部支援学校 林田美玖司会 群馬県立大泉高 牛久保英明・進行 群馬県立渋川工業高 山本剛太・助言 埼玉県立越生高 野村守</p> <p>基調講演 「働きやすさと働きがいをつかめませんか？」～よりよく働くための方策を探る～ ▽講師 神奈川県横浜市日枝小学校事務職員・上部充敬</p>
<p>00.30 <b>Web</b>開会式・表彰式 ▽香川大会実行委員長 高木康晴▽被表彰者 永年勤続109名・役員功労者7名・優秀研究2件 ◇休憩</p> <p>1.50 <b>Web</b>文部科学省講話 ▽文部科学省 初等中等教育局 財務課校務改善専門官 遠藤雅典◇休憩</p> <p>2.50 <b>Web</b>全体会 記念講演 ▽株式会社今治 夢スポーツ 代表取締役会長 岡田武史◇休憩</p> <p>4.50 総会 ▽会長 石田早苗</p>	<p>00 休憩</p> <p>1.00 <b>Web</b>基調講演 「学校の防災体制」～事務職員の立場で考える～ ▽講師 兵庫県立大学客員教授・防災教育学会会長・諏訪清二</p> <p><b>Web</b>グループワーク 「災害体験から学ぶ事務職員の役割」 ▽シンポジスト 兵庫県立大学客員教授 防災教育学会会長 諏訪清二・宮城県立学校市川康彦・石川県立学校中村英弥・岡山県立学校藤井國昌・熊本県立学校柳田綾奈◇休憩</p> <p>4.00 <b>Web</b>閉会式</p>	<p>00 休憩</p> <p>1.00 <b>Web</b>基調講演 「時間と気持ちのゆとりを取り戻す仕事術と学校改善」～個人でできること、学校でできること、教育委員会と一緒にできること～ ▽講師 教育研究家 一般社団法人ライフ＆ワーク代表理事〇〇〇教育テック大学院大学教授・妹尾昌俊</p> <p><b>Web</b>グループワーク 「あなたにとっての【学校事務】とは？」～学校事務職員としての夢を、未来を彩ろう～ ◇休憩</p> <p>4.00 <b>Web</b>閉会式</p>	<p>00 休憩</p> <p>1.00 グループ討議 「全国の仲間と語り合い、学校事務職員としての土台づくりをしませんか？」～己を知り、他人を知れば、その先に見えてくるものがある！？～ ▽講師 神奈川県横浜市日枝小学校事務職員・上部充敬 ◇休憩</p> <p><b>PICK UP</b></p> <p>次のページで特集！</p> <p>4.00 <b>Web</b>閉会式</p>

開催地・香川県

について



今回の研究大会は、香川県にあります、サンポートホール高松大ホールにて開催されました。

この全国大会香川大会のキャッチフレーズは、「四国は1つ 全国も1つ ともに高めよう おいでまい『うどん県』」です。

今回の研究大会のため、オンライン参加を含め700名以上参加されました。

上に映っている生物は、かがわ総文祭2025のマスコットキャラクター「さぬぽん」です。屋島の太三郎狸をモチーフにしているとのこと。

**Web**・リアルタイム配信及びオンデマンド配信



午前の部

グループワーク「いま、仕事は順調ですか？」

最初のグループワークは、「いま、仕事は順調ですか？」をテーマに、今自分が抱えている悩みや課題、担当業務で上げることのできた成果を各グループで共有するものでした。

この内容については事前にアンケートが行われており、その集計結果があらかじめ共有されていたため、当日の参加者がどのような悩みや課題等を持っているかを事前に確認することができ

ていましたが、全国各地からの回答であったにもかかわらず、自分の考える悩みと似た内容も多く見られたことには驚きました。

当日のグループメンバーからも同じ感想が聞かれましたが、実際にグループワークを通じて詳しく話していくと、「事務処理における必要書類の確認や制度自体の理解」「職員・保護者からの提出物回収」などの同じ悩みであっても、地域の実情によって考え方や重要視する部分に違いが見られ、解決のためにしてきた工夫も様々で、自分ひとりでは思いつかなかった知識や考え方を共有することができ、とても貴重な経験になりました。

## 研究発表 第3分科会 「今日的課題への提言」

講師 神奈川県横浜市日枝小学校 上部 充敬 様



第3分科のグループワークの様子

基調講演 「働きやすさと働きがい高めませんか？」

基調講演では、「働きやすさと働きがい高めませんか？」をテーマに、学校生活における仕事の取り組み方や考え方について話がありました。

中でも、「リーダーシップ」についての話が印象的で、リーダーシップと聞くと、指示や命令などにより目的達成へと導く、管理職など上役に求められる資質という印象でしたが、この講演では、小さな課題であっても「どうしたいか？」を引き出し、それを応援・

支援する形で解決に向けて方向性を示すことだと話していました。

これは、例えば年末調整など、教職員自身が作成に関わる事務においても有効的で、方向性を示して周りを巻き込んで解決していくことで、最終的には職員自身が考えるようになり、結果として自分の負荷は下がるが業務全体の質は向上していくようになるそうです。実際に上部さんが学校で行ったことの例を挙げていただいたのですが、職員の動静が一覧で分かる

ようにの記録を活用して管理し始めたところ、それがきっかけで他の職員も業務上での記録を活用し始めたとのことで、「こういうことをやっていいんだ」と周りに思ってもらうことが大切と言っていました。

実際に分科会の中でも、午後講演のためのテーマ一覧やチーム選択などにQRコードを活用しており、携帯で読み取るだけでテーマの確認や選択ができるのは便利だなと思いつても勉強になりました。



## 午後の部

午後からは、給与事務やコミュニケーションなどそれぞれ同じ意見を持ったメンバーが集まるようグループを再編し、そのテーマから深掘りする内容を決め、討議しました。

コミュニケーションに関するグループでは、教員間とのコミュニケーション・情報共有に苦労している部分が他県も多く、各々の県で活用しているビジネスチャット等の意見交換をしました。

千葉県ではTeams・チャットラックを主に活用しているのに対し、他県では学校現場で活用できるLINEを活用していたり、ビジネスチャット等をまだ活用していないなど、県によってもバラつきがありました。そのため、ビジネスチャット等を活用するメリットについて話し合い、「行き違いを防ぎ確実に情報を伝えられるようにする」や「教員の授業が空いている時間を気にする必要がなくなるため、時間短縮に繋がる

### グループ討議

## 「全国の仲間と語り合い、学校事務職員としての土台づくりをしませんか」

る」などが挙げられ、お互いの業務改善・利便性向上のための意見交換をすることができて良かったです。

給与事務に関するグループでは、「正しく給与を支給し職員との信頼関係を構築すること」を本質に、「職員自身が制度を理解し、当事者意識を持ってもらう」を課題に討議しました。

秋田県では冬季のみ寒冷地手当があったり、沖縄県では離島勤務による処理の煩雑化があったりなど、各地域における違いがありながらも、「手当の必要書類を冊子化して置いておく」や「定期的に現状調査を行う」といった対応のほか、「明細裏面に給与と制度に関するコラムを記載する」といった珍しい取り組みも聞くことができ、午前中のグループワークとは異なり、担当業務に限らず同じテーマについて話したい人が集まったため、そのテーマについてより深く掘り下げて考えることのできる時間となりました。

## 研究大会を終えて

最後に、今回の講演やグループワークの中で、上部講師は「得意なことでもあえて手放して相手に委ねてみる」とや「同じ業務でも時間の使い方を少し変えてみる」とによって、普段は気づけなかった視点が見えるようになり、働きやすさや働きがいが変わってくると話していました。

今回の全国大会の場においても、一日を通して全国の方々と討議を行う中で、新たな視点や考え方を学ぶ貴重な機会となりました。

今後は、自分にできることから少しずつ業務に反映させ、自分自身だけでなく、周囲を含めた職場環境の向上に寄与していきたいと考えています。



左から渡邊事務局長、金木副会長、小野寺副会長

## 最後に

今回は、全国公立学校事務職員研究大会第3分科会に参加されました、千葉県立長生特別支援学校の栗飯原さん・千葉県立松戸向陽高等学校の内山さんより、感想等をお伺いしました。原稿を読んでいて、私も現在給与関係の業務をしているため、地域ごとの特別な手当の支給や、対応方法等とても勉強になりました。これを機に教員への周知方法や業務の改善を図り、今後の学校事務へと活かしていきたいと思いました。

我孫子東高等学校 秋葉莉穂